

櫻ノ天狗巢ニ就キテ

山田 ひろ

櫻花爛漫タル候其枝上ニ花ヲツクル事ナク小形ノ葉ノミ叢生シ普通ノ枝ト一種趣ヲ異ニセル枝ヲ見ル、稀ニ直立スルモノモアルモ多クハ下垂ス是ヲ櫻ノ天狗巢又ハ天狗ノ腰掛ト稱ス。

斯ノ如ク或植物上ニ於テ其或部分カ特ニ多數ノ枝ヲ出シ葉ヲ付クル現象ヲ捕ヘテ普通ニ天狗巢ト稱ス即チもみ、くは、たけ、あすなる等ニモ生ズ然レドモ是等ノ天狗巢ヲ生ゼシムル原因ハ常ニ同ジカラズ即チ、

もみノ天狗巢ハ *Melampsora caryophyllaeorum* (De.) Schortl.

はまなすノ天狗巢ハ *Puccinia Rosae Barel.* 又

あすなるノ天狗巢(あすなるのひじか)ハ *Coeoma deformans Tubert.*

つつじノ天狗巢ハ *Exobasidium pentasporium Shirai* ニシテ共ニ銹菌類ニ屬スル菌類ノ寄生ニヨリテ生ズルモ

きりノ天狗巢ハ *Glucosporium kawakamii Miyabe* 即不完全菌類ノ寄生ニヨリテ生ジ

たけノ天狗巢ハ *Aeculosporium TakeMiyake* ノ寄生ニヨリテ生ズ此菌ハ囊子菌ニ屬シくはノ天狗巢ハ生理的病害ニシテ亂伐ニヨル萎縮病ナリ。

櫻ノ天狗巢ハ又囊子菌ノ一種ニシテ農科大學教授白井氏ニヨリ *Taphrina Pseudo-cerasus Shirai.* ノ名ヲ與ヘラレタルモノナリ。

Taphrina 屬ノ菌類ハ凡テ活物寄生ニシテ内部寄生ノ一種ナリ今其寄生ノ有様ヲ略述スレバ次ノ如シ。

此菌ノ孢子ハ櫻ノ枝ノ組織内ニ入りテ主ニ其篩管部ニ蔓延シテ是ヨリ養分ヲ吸收シ成長スルヲ以テ枝ハ遂ニ畸形ヲ呈スルニ至ル春期子囊形成ノ際ニ至レバ菌絲ハ順次發育シテ細胞間隙ヨリ表皮細胞ノ「クチクラ」壁ト細胞膜質トノ間ニ出デ此所ニ葉ノ面ニ平行シテ蔓延ス今若シ斯ノ如キ組織ニ「鹽化亞鉛沃度」液ヲ加フレバ其特異ノ反應ニヨリテ表皮細胞膜ノ上部ハ褐色ヲ呈シテ「クチクラ」ヨリナルヲ示シ下部ハ莖青色トナリ其中間ニ菌絲ノ介在スルヲ見ル可シ後此菌絲ニ隔膜ヲ生ジ其各細胞ハ葉面ニ直角ノ方向ニ延ビ遂ニ「クチクラ」皮ヲ突き破リテ其外ニ突出シ後漸ク成長スルニ至リ各細胞ニ隔膜ヲ生ジ上下ニ二分ス上方ハ大ニ下方ハ小ナリ此上方ノ細胞ハ所謂子囊ニシテ下方ノ細胞ハ脚胞ナリ斯シテ時ヲ經ルニ從ヒ子囊中ニハ八個ノ孢子ヲ形成ス成熟シタル子囊ハ其長四十乃至四十四「ミクロン」幅六乃至九「ミクロン」脚胞ノ長六乃至九「ミクロン」ナリ。

成育シタル孢子ハ子囊ヲ破リテ飛ビ出シ他ノ健全ナル莖ニ至リテ附着シ其組織内ニ寄生ス順次斯クシテ該菌ハ櫻樹ニ繁殖ス此菌ニ侵サレタル枝ノ葉ハ春健全枝ノモノヨリモ早く發生シ葉ノ大

サ七八分位ニ達セル頃ニハ既ニ病徴ヲ呈シテ一般ニ健全葉ヨリモ小ナリ殊ニ子實層ヲ帶ブルモノニアリテハ形狀萎縮シ表面ハ綠黃色又ハ淡綠色ヲ呈シ其葉脈間ニ緩ミヲ生ジ恰モ枇杷ノ葉面ノ如クナリ其邊緣下面ニ向ヒテ反捲ス然シ中ニハ却テ上捲スルモアリ此葉ヲトリテ裏面ヲ檢スレバ其表面ノ變色スル所ニ相當セル部分ハ悉ク白粉色ヲ呈ス此病葉ハ先端ヨリ漸次黒化乾燥シ葉端ハ上反シ葉縁ハ益下反シ乾縮シテ遂ニ枯死ス。

斯ノ如キ枝ハ最初被害度弱キ時ハ二三ノ花ヲ付クレドモ遂ニハ開花ノ能力ヲ失ヒ遂ニ枯死スルニ至ル。

白井教授ハ此種ノ菌類ハ本邦固有ニシテ歐米ニ知ラレズ歐洲諸邦ニ産スル洋種櫻 *Prunus cerasi* 亦我が國ノ櫻樹ニ生ズルト同様ナル天狗巢ヲ生ズレドモ之ハ *Taphrina cerasi* ノ寄生スルヨリ起ルモノニシテ本邦ノ櫻ノ天狗巢菌トハ其胞子ノ因數及大小ニ著シキ相違アリ即チ本邦ノモノニアリテハ子囊芽胞ハ熟スルニ及ビ分殖シテ多數トナレドモ洋種ノ櫻樹ニ寄生スルモノハ其芽胞八個ニ止マルニ依リテ我が國ノモノニ *Taphrina Pseudo-cerasi* ノ新名ヲ與ヘラレタルナリ。

然レドモ出田氏ハ其植物病理學ニ此區別ハ要ナシトセラル然シテ又齋田先生ノ内外普用植物誌ニ於テハ此菌ヲ「エングラ」氏ノ分類ヨリテ *Exosorus cerasi* トセラル是ハ氏ガ外子囊菌科ヲ二分シテ菌絲ノ宿主體內ニ宿存スルモノヲ *Exosorus* トシ宿存セザルモノヲ *Taphrina* トセラル

シニヨリ櫻ノ天狗巢ハ前者ニ屬シタルナリ出田氏ハ此區分ヲ立テズ全部ヲ *Taphrina* トスル分類法ニ依ラレタルヨリ斯ク屬名ノ差異ヲ生ズルニ至リタルナリ。

次ニ櫻ノ種類ト被害ノ度ニ就キテ述ベンニ白井教授ノ論文中ニ普通一般ノ人ハ八重櫻ニハ天狗巢ハ生ゼズト云フニ對シテ八重櫻ハ一重ニ比シテ甚ダ少ケレドモ全ク生ゼズト云フコト無シト記サル故ニ實際其數ニツキテ知ラバヤト欲シ過日荒川堤ノ櫻樹ニ就キテ調べシニ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

一重 健樹四百八十八本ニ對シテ病樹二百四十四本即チ三三、三、二「プロセント」ナリ。

八重 健樹九百七十三本ニ對シテ四十一本即チ四、四「プロセント」ナリ。

是ハ唯一度ノ調べナレハ細キ數ニ至リテハ確タルコトハ云ハレザルモ大體ニ於テハ誤リ無キモノト信ズ此八重ノ病氣ニ罹レル種類ヲ擧グレバ、

きりん(麒麟)、うこん(鬱金)、あまのがは(天の川)、べにふげん(紅普賢)、ちぬしざくら(地主櫻)、やうきひ(揚貴妃)、なんでんざくら(南殿櫻)等ナリ。

概シテ八重ハ其病枝殆ンド直立シ且一重ニアリテ見ラルル如キ大ナルモノハ多カラズ。

一重ニテハ其病枝ノ長サ間餘ニ渡ルモアリ又高サ一間位ニシテ二間以上ニモ擴ガレルモノアリ中ニハ一樹二十一位モ病枝ヲ付クルアリ或ハ一枝全ク侵サレタルモアリ斯ク病枝ヲ付クルハ大樹

ニ多キガ如シ。

一重ニテハ殊ニそめゐよしのニ多キ様見受ケラルサレバ此そめゐよしのノ多キ東京ニテハ櫻樹ノ美觀ヲ損スルコト少カラザルベシ又普通ノ庭ニ於テモ同様ナレバ今少シ是ガ豫防法ニ注意アリタキモノナリ夫ニハ櫻樹ノ未ダ發芽セザル時ニ其病枝ヲ悉ク截リ捨テ他ニ蔓延スルヲ防グニアリ序ニ Taphrina 屬ノ菌類ニ侵サルル他ノ植物ヲ舉グレバ

すももノふくろみ病ノ病原菌ハ Taphrina Tulasne ナリ之ハ前回ニ於テ説明アリタレバ省ク、ももノ縮葉病ノ病原菌ハ Taphrina deformans Tulasne ニシテ菌絲體ハ該樹ニ寄生シ其枝ニ於テ越年シ五六月ノ頃葉ノ一二寸ニ延ビタル際葉ニ帶紫赤色又ハ帶黃淡綠色ノ腫起セル斑點ヲ生ジ漸次全葉ニ擴ガリ表裏灰白色トナリ遂ニ黑變シテ乾燥凋落ス子實層ハ葉ノ兩面ノ上皮下ニ成生シテ子囊ヲ生ズ。

なしノ葉腫病ノ病原菌ハ Taphrina bullata (Berk. et Br.) Tulasne ニシテ葉ニ膨大セル斑點ヲ生ジ淡黃色ニシテ其部ハ葉ノ組織他ノ部ヨリ厚クシテ脆弱ナリ子囊ハ裏面ノ表皮下ニ生ズ此時ニハ表面少シク白色ヲ呈ス漸次黒色ニ變ジテ枯凋シ遂ニ葉ノ脱落ヲ促ス。

うめノ膨葉病ノ病原菌ハ Taphrina Mama Nishida ニシテ新梢ヲ發生スル頃病徴ヲ發シ病梢ハ成長遲滞シ莖葉共ニ多肉質ニ變ジテ紅色ヲ呈スルモ後ニハ灰白色トナリ遂ニ黑變腐敗シテ脱落ス

子囊ハ葉ノ上皮下ニ成生シ上面ニアル子囊ハ下面ニアルモノヨリモ早く發生ス。等ナリ

本會記事

明治四十五年五月十一日午後一時ヨリ本校第二圖書室ニ於テ本會第二十三回例會ヲ開ク新部長矢部教授開會ノ辭ヲ述ベラレ且理科會ニ對スル今後ノ諸注意ヲ與ヘ給ヘリ本日ノ談話次ノ如シ、

- 一 酸酵ニ就キテ 理、三 林 薫
- 理、三 奥田いし
- 理、三 安井とく
- 一 水道ニ就キテ 理、四 山口 秀
- 同 小西みさ
- 同 松本春野
- 一 櫻ノ天狗巢病ニ就キテ 理、四 山田ひろ
- 理、四 本間なを
- 一 萬年筆ニ就キテ 理、四 矢部教授
- 「セクオイア」及「タキンヂウム」ニ就キテ